

園芸技術情報 (2)

平成 21 年 12 月 7 日

最近相談のあった園芸に関する質問等について記載いたします。
今月はベト病など気温の低下と多湿条件を好む病害の発生が見られています。
営農指導の参考として下さい。

栽培管理の基本：病気の予防は適切な生育の確保と排水対策です。

これから降雨量が多くなります。多湿、低温による病気の発生が多くなるので**圃場排水を徹底**することが肝要です。タマネギは排水不良圃場では消える危険があります。冬の間の除雪した雪が乗るような場所は特に危険です。また、病気に侵された葉茎は圃場外に持ち出し処分して下さい。

堆肥の施用：堆肥の施用は栽培上重要なことですが、福井県の場合、十分醗酵した堆肥は少ないのが現状です。**未熟な堆肥を使用すると、かえって害虫が寄ってきて産卵することにより、幼虫による食害が多発します。**特にバレイショやダイコンなどの根物の植え付け前には施用しない方が良いと言えます。

Q：白菜の外葉が枯れこむ。

A：すでに収穫期となっている白菜の外葉が枯れこんでいる病害としては**ベト病と白斑病**があります。白斑病は字の通り白っぽい多角形の斑点が散った状態になっているが、ベト病もステージによって、よく似た症状となるため見分けは難しい。しいて言えば、白斑病の方は、圃場一部のかたまって発生し、ベト病の方は圃場全体に発生する様相が見られる。ただし、白斑とベト病は混発することが多い。**防除は両病共通としてダコニール 1000 を 1000 倍・収穫 7 日前までの使用となります。**圃場排水に努めることが肝要です。

Q：サトイモのヒビ割れがひどい。

A：これは病気ではなく**生理的なもの**です。もともとサトイモの表面には肥大に伴っての細かいヒビが入っていることが多いものです。ダイコンやニンジン^{（注）}の裂根と同じく急激な肥大により、このヒビの一つの割れが進行したものです。割れた部分を指で押しても潰れなければ、問題はありません。

Q：ネギはアブラムシが寄らないと言われ、キャベツなどと混植したが、肝心のネギにアブラムシ見たいなものが多数発生した。

A：野菜栽培においてネギ類の混植はウリ科作物などの蔓割れ病など**土壌病害軽減**に効果があるとされており（効果の次第は？ですが）、**アブラムシの忌避効果は？**です。**ニンニクの間違いでないでしょうか？**ネギへのアブラムシの寄生は少ない方ですが、虫害として記載されております。防除はマラソン乳（2000～3000倍、7日前、6回）のほか、スミチオン乳、ジメトエート乳が登録されております。

Q：ダイコン**岐根（またね）**の発生が多い。

A：ダイコンの岐根発生の原因は 耕盤が浅い、若しくは礫が多い畑での栽培。害虫によるダイコンの幼根の食害。肥料などの局所施用による肥やし当たりや圃場冠水などによるダイコンの幼根の腐りなど機能障害などである。**今回のケースは元肥として**

硫安の多用が行われており幼根の肥料当たりが疑われた。

余談になるが、高齢の栽培者では、野菜栽培によく硫安や尿素などの単肥を使用される場合がある。これらの肥料は窒素が高く、P(燐酸) や K(カリ) が殆どないため、葉ばかり茂って、その割りに根部の肥大が劣りやすい。また、軟弱に育つため病害にも弱くなるので、単肥を使う場合はようりんや珪酸カリなどの併用が必要である。

Q：新規に客土した圃場での今後の栽培対策。

A：客土は丘陵地の芯土（表層を剥いだ下層土）であり、病害菌の心配はないが、土壌養分があまりなく、PH もかなり低いと考えられる。土質は砂質系であるので取りあえず石灰質肥料を 150kg/10a、牛糞堆肥を 3～5 t/10a、鶏糞を 300kg/10a 程度施用し耕起の上、**土壌分析にかけ栽培作物にあった肥料設計をして下さい。**

Q：タマネギ苗を購入したが、葉が所々白く枯れておりベト病と思われるので防除したい。

A：**葉が部分的に白く変色し枯れこむ病状はベト病のほかに白色疫病がありよく似ているので区別は難しい。**両方ともカビ菌であり、発生条件も似通っているため、混発している場合が多い。**防除剤はジマンダイセン水和剤やリドミル MZ 水和剤など両病に共通するものが多い。**被害が拡大しないよう、春までに農薬散布を行い病害の進展を食い止めておかなければならない。なお、圃場の排水に努めることが肝要である。

Q：ダイコンのセンチウによる食害がひどく発生している。

A：症状を聞き取りによると**キスジノミハムシによる被害をセンチウによるものと誤解をしている。**キスジノミハムシの幼虫がダイコンの表面を食害する。早い段階での食害は、ダイコンの表面がなめられたような凸凹上となる。肥大中期以降での食害は、ダイコン表面が網目状の食痕を残し、中まで食い入る場合もある。**防除はダイコンの播種時ダイアジノン粒剤などを施用しておく。**今回のケースではダイコン播種前に堆肥を多用していた。このためキスジノミハムシの産卵が多くなり、被害を助長したと思われる。

Q：パレイシヨの種芋が大きくて切らなければならない。こうした芋は腐りが出やすいので小さな芋に交換してほしい。

A：パレイシヨの芽の数は大きい芋も小さい芋も余り差がない。**小さな芋（S 級）は切らなくても良い代わり、萌芽数が多くなるので、後で茎選り（すぐり）に手間がかかる。**また、芋が小さいと発芽力が弱いので収量も劣り勝ちとなる。芋の切断は植え付けの 4～5 日位前までには行っておき、傷口が治癒してから植えます。植え付け当日に切断し植えてはいけません。切り口に石灰や灰などをまぶすことも適切な方法とは言えません。**最も適切な方法は植え付けの 3 週間位前に切断し、暖かいところに置いて発芽を促進させて（浴光催芽）から植えます。**

Q：トマトの食味が良くない（酸味が強い。）

A：栽培管理の方法と食味の関係については良くわからないことが多い。栽培的に窒素が高い、日当たりが悪いなどの条件下では**光合成による同化養分の転流が悪く食味を落とすことが考えられます。**また、**土壌中の肥料バランスが悪く、特定の養分の吸収が阻害されることにより食味が悪くなることも考えられます。**